

## フィンランド 住宅フェア IN LEMPAALA

フィンランドで毎年 夏に開催される住宅フェア。開催場所は 毎年変わり 地場工務店、大手建築会社がその年の最新戸建&集合住宅等をモデルルームとして建設。

基本的には フェア期間中に すべてのモデルホームを来場者へ販売する。

今回の開催地=LEMPAALAは首都ヘルシンキより車で約2時間弱に位置し、持続可能な住宅を中核としたモダンでコンパクトな都市型住宅地の建設が予定されている。また気候変動へ配慮は今回の住宅フェアの主要テーマであり、建築と生活における目標となっている。開催期間: 10 JUL - 09 AUG 2018

2) オープン時間: 10:00 - 18:00

3) 展示予定軒数(戸建、集合住宅):約30~40



## タンペレの街並み

フィンランドの公衆サウナ文化を代表するサウナキャピタル・タンペレ。フィンランド人が住みたい都市ナンバーワンにも輝いています。ナシヤルヴィ湖とピュハヤルヴィ湖という 2 つの湖に囲まれ、森と湖の国フィンランドにふさわしい落ち着いた雰囲気のある街。市の南北に位置する二つの湖の高低差を利用した水力発電により紡績業や機械工業が盛んで、かつてはフィンランド随一の工業都市として栄えました。赤レンガ造りの重厚な工場跡地は、現在では文化施設やレストランなどに変わり、劇場や音楽などのアート・イベントも多く開催される文化都市となっています。



公衆サウナ

サウナキャピタル・タンペレには新旧のサウナ文化が栄えています。1906年創業のフィンランドに現存する最古の公衆サウナ「ラヤボルッティ・サウナ」や湖水浴体験が楽しめる「ラウハニエミ公衆浴場」、おしゃれな「サウナレストラン・クーマ」などタンペレには特色のあるサウナがたくさん！タンペレは毎日がサウナ日和。存分に本場のサウナでととのいませう。



タンペレ大聖堂

中世建築のような豪壮な外観の教会がタンペレ大聖堂。アールヌーヴォーの影響を受け、20世紀初めに流行したナショナルロマン主義を代表する建築です。教会内にはヒューゴ・シンベリがデザインしたステンドグラスと天井のフレスコ画、マグヌス・エンケルによる聖歌隊席のステンドグラスと祭壇のフレスコ画が掲げられており、それぞれじっくり鑑賞したくなるような見事な作品に仕上がっています。



フィンレイソン・コットンミル・エリア

フィンランドを代表するテキスタイルメーカーであるフィンレイソンは1820年にタンペレで創業しました。現在、かつてのフィンレイソンの工場跡地はアトリエやカフェなどに生まれ変わっています。この地下には、スパイ博物館もあります。タンペレには、ここ以外にも川沿いの工場地跡を利用した博物館のヴァプリーッキ、集合住宅を保存したアムリ労働者住宅野外博物館、レーニン博物館などの見どころも。

## パイミオのサナトリウム

パイミオのサナトリウムはフィンランドの機能主義建築の代表作として、また建築家アイノ、アルヴァ・アールト夫妻の出世作としてよく知られています。パイミオのサナトリウムが名作と言われる所以は、単にフィンランドに機能主義建築をもたらしたということだけでなく、使う人の気持ちや心地良さを機能主義建築の言語に融合させた「人間的な機能主義」を結実させたことにあります。

ユネスコ世界遺産にも登録されている同建築は、現在パイミオ・サナトリウム財団によって管理運営されている。



## アアルト自邸

北歐・フィンランドが生んだ20世紀を代表する世界的な建築家、都市計画家、デザイナーであるアルヴァ・アアルトとその妻 アイノ アアルト。二人がともに設計し、40年に渡り暮らした自邸がフィンランドのMシキ郊外の閑静な住宅街にある。建築やデザインを志す人々が一度は訪問したい場所としても有名。(1936)



## アアルト アトリエ

自邸から徒歩15分程度、「仕事場」らしく真っ白な外壁の直線と曲線で構成された無機質な雰囲気。アトリエの内部は明るく、内部の壁も貴重は白ですが作業デスクやところどころアアルトの持ち味木造が効果的。



## テンペリアウキオ教会

1969年にスオマリネン兄弟の設計により、大岩を掘り下げて作られた世界でも大変珍しいフィンランド福音ルター派の教会。この教会は円形状で、屋根には大きな青銅のドームを乗せ、壁は掘り出したままの岩をむき出しにしています。壁上部にはガラス窓がたっぷりとはめ込まれており、自然光が美しく差し込む。



## フィンランディア ホール

フィンランディアホールは、フィンランドを代表する世界の建築界の巨匠、アルヴァ・アアルトが1971年に人生最後に建設したコンサートホール／議事堂です。真っ白で印象的な白亜(石灰石の一種)を大胆にも外壁全面に使用している。



## アカデミア書店&カフェ アアルト

アアルトが1969年に設計したフィンランド最大規模の書店。3階吹き抜けになっている内部には真っ白な大理石がふんだんに使われていて、ない日の印象を広々とした開放的な印象の生み出しており、古さを全く感じさせないそのデザイン。また、書店内2階には「アアルト・カフェ」が併設されている

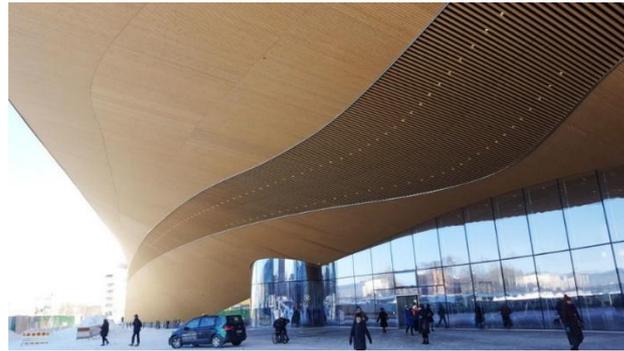


## OODIヘルシンキ中央図書館

2018年12月にオープンとなったヘルシンキ中央図書館「OODI(オーディー)」。木材を大胆に使用した流線型のフォルム、そして憩いの場として考えられた館内、機能性は、多くの人々を魅了し、既に200万人以上の来場者がありました。このOODIが、世界で最も優れた公共図書館に選ばれました！

まずは外観から。この流線型を帯びた外観には木材が大量に使用されており、大きな存在感があります。OODIは巨大な建築物なので、遠くからも目立ちますし、待ち合わせ場所としても人気になっているそうです。

気になる建物内部ですが、OODIは3フロア構成となっています。それぞれフロアに特徴があり、1Fはカフェ、映画館、展示場やイベントホールなどがあり、2Fは仕事や学びのためのフロアとして、ワークショップができる会議室やさまざまなスタジオ、個室、設備の揃った工房などがあります。3Fは本の楽園をイメージしたフロアとなっています。



## ヘルシンキ郊外高齢者福祉施設

福祉国家として有名なフィンランドの高齢者政策は、「可能な限り自立して暮らし、良質な福祉サービスが受けられる」ことを目指しています。首都であるヘルシンキを中心に、高齢者住宅や介護関連施設が複数あり、冬の時間が長い北欧の国では、室内で過ごす時間が長いため、北欧デザインと呼ばれるカラフルな色遣いの内装が主流で、いくつかの高齢者施設も同様に、明るいインテリアに囲まれており、心が明るくなるような施設である。



\*別紙 資料参照

## レストラン サヴォイ

建築家兼デザイナーのアルヴァ・アアルト夫妻による 1937 年の内装を、今もそのまま利用している。アアルトの代表作の 1 つであるアアルトベースは、この店のためにデザインされた。メニューはフレンチミックスのモダン・フィンランド料理が中心。



## ヘルシンキ大聖堂

白亜の外壁と緑色のドームのコントラストが美しい大聖堂。ドイツ人建築家のカール・ルートヴィッヒ・エンゲルが設計し、1852年に竣工した。当初はニコライ教会とよばれていたが、1959年に大聖堂が正式名称に。現在も福音ルター派の総本山として機能している。



## 現地インテリアショップ

### ①アルテック

1935年に美術評論家と資産家、アアルト夫妻が創設したインテリアデザインショップ。主にアアルトと妻のアイノがデザインした椅子や照明器具が展示されており、アアルト夫妻の死後も彼らの優れた作品を販売し続けています。アルテックというショップ名は「アートとアートとテクニク」を合わせた造語です。ショールームはまる美術館のようで、アアルト夫妻を始め若手のフィンランドデザイナーの作品も多く揃えています。



### ②ヴァイトラショップ

ヴァイトラショップヘルシンキは、かつてフィンランド家具のデザイナーであるエーロ・アールニオの作品を中心に扱うインテリアショップ「エアロ(Aero)」が閉店した後、2014年にオープンしたインテリアショップ。主にヴァイトラ製のさまざまな家庭用家具を取り扱っているのが特徴。落ち着いた雰囲気のある店内には、シンプルなのにデザイン性の高いモダンな家具があふれている。



### ③マリメッコ

Armi&Viljo Ratia が 1951 年に設立したマリメッコは、ファッションやアクセサリをインテリアと組み合わせたフィンランドのデザインハウス。マリメッコは独特のプリントとカラーが有名で、何十年にもわたりフィンランドの日常生活の一部となっており、ほとんどすべてのフィンランドの家庭に洋服やテキスタイル、あるいはバッグなど何か一つはマリメッコのアイテムがある。1960 年代にケネディ大統領夫人がマリメッコファッションを身につけたことで世界中に知られるようになった

